

【NPO通信】

インドネシア教育振興会(1) 文具送付や交流仲介

2010年4月6日

「えんぴつ一本からできる国際ボランティア」がキャッチフレーズ。インドネシアや日本で、両国の子どもたちのために活動をしている「インドネシア教育振興会」は今年で十周年を迎える。今回から、同会の活動などを紹介してもらう。

インドネシア教育振興会は、主宰者の窪木靖信がインドネシア人留学生(現・インドネシア科学技術応用庁職員)ファディラ・ハシムと「えんぴつ一本からできる国際ボランティア」をキャッチフレーズに、二〇〇〇年に設立した非政府組織(NGO)です。

インドネシアの子どもらの貧困な生活、教育環境を目にした窪木が、日本の子どもたちから寄付された学用品を現地に届けることから活動を始めました。

現在は富山、バリ、バンドンに事務所を構え、各種財団からの支援やバリでの観光業の収益を主な財源に活動しています。学生や一般のボランティアにも支えられています。

学用品送付に始まった活動は、日本と現地の子どもたちの交流の仲立ち(これまでに延べ三千人が交流)、日本の子どもたちにインドネシアを紹介するための国際交流イベントの開催(計四回)、日本の子ども向けの国際理解ウェブ教材の作成、日本の大学生対象の国際理解スタディー・ツアーの実施(計九回)などに広がりました。

現地の活動は里親奨学金制度の実施(対象者二人)、情報通信技術(ICT)教材の作成とICT講習会の実施(これまでに延べ千人が参加)、道徳教材の作成と頒布、バイオマスを利用した環境保護活動、小学校の改築(バンドン一校)、学校図書館の建設(バリ島一校)などです。

これまで十年間、活動を続けられたのは、活動を理解し協力してくださった皆さまの支えがあったからです。紙面をお借りして、心より深く感謝申し上げます。現地スタッフを含めても十人余りのNGOなので、私たち自身の手でできることは限られています。

しかし、インターネットで情報を発信し、一般の皆さまに協力を呼びかけてボランティアを募り、活動をやり遂げることが可能になっています。十年間で現地での知名度や信頼度も高まり、当初に比べ、スムーズに事が運ぶようになりました。

今後も現地の、日本の子どもたちを育てる活動を進めていきたいと考えています。(インドネシア教育振興会理事・野平慎二)

〈団体情報〉

団体名／インドネシア教育振興会

主な活動／インドネシアと日本の児童生徒の交流の仲立ち、寄付品の受け付けと送付、現地での学校や図書館の建設、情報教育、道徳教育、環境教育など。

住所／富山市中滝142の9

